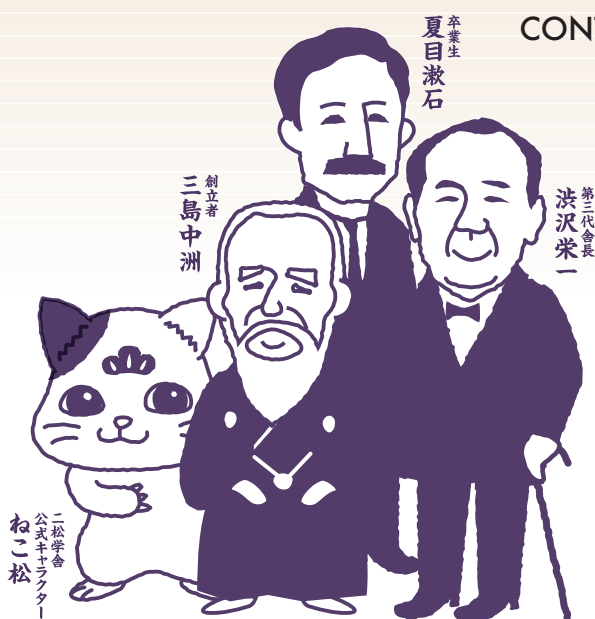




二松学舎 松苓会報



CONTENTS

- P2 卒業生へ贈る言葉 平野光治会長 佐藤晋学長
- P4 松苓会支部長だより⑥ ー北海道・東北支部特集ー
- P7 吾輩、推し言葉⑤
- P8 卒業生だより
- P9 教壇を去られる先生 卒業生の出版図書
- P10 全国自慢地図 予告編・特別寄稿
- P11 文学部中国文学科名称変更のお知らせ
- P12 おかえりなさい!! ホームカミングデー開催
同期会通信
- P13 学生会員だより
- P15 「人材バンク」登録募集 寄付者芳名
- P16 祝・附属高等学校ダンス部・野球部 事務局だより
訃報 編集後記

No.73 2025年 3月10日
二松学舎大学同窓会広報誌

2022年10月に145周年を
迎えました
145th
anniversary
since 1877

卒業生へ贈る言葉 人とのつながり



松苓会会長
平野 光治

私は、集中力に欠けるといふ弱点を持っています。集中するまで時間がかかります。よほどのことがない限り、車中で読書などできません。静かな環境が必要なのです。限られた貴重な時間を有効活用できなくて、唯々惰眠をむさぼることになっていました。これは私にとって非常に残念なことでした。

松苓会室に通うようになって、人の行動に目が向くようになりしました。「人のふり見て」ではありませんが、車中の人々の様子を見ることで自分の行動について考えることが多くなったのです。

短時間で変化する現代について行くのは難しい。更には、自分一人ではこの時代にあふれる膨大な知識を身に着ける

ことはできません。そう考えると、それぞれの専門的知識を持つ人を知ることが、大切なことになってなりません。わからない事を聴ける親しい人がどれだけ身の回りにいるかが大きな意味を持つと思うのです。まさに人となりのつながりが大事に思えるのです。

全国の支部総会に出かける機会を持てるようになって、二松学舎大学の卒業生のすばらしさに驚いています。書道の専門家は言うまでもなく、中国語にたけた人、文学者、漢文関係者、教育関係者等、枚挙にいとまがありません。己の不勉強を恥じることが多くあります。しかし、そういった人が多くいる環境は喜ぶべきことと思っています。

卒業生の皆さんが進まれる道はそれぞれ違っていても、それぞれの道に人がいて、人と人との関係で仕事をしていくことになります。自ら人に関心を持たなければ、人となることができません。自分の考えや思いにこだわらざる、その人の好きを受け

取ることができません。人はそれぞれ学ぶべきものを持っているのです。それを発見するためには、他の人の言葉に迷わされず、自分が素直に見て、確かめる必要があります。

偉大な業績を前にして、「あの人だから」「そういう環境だったから」などと切り離すのではなく、認め、学んだほうが良いと思うのです。

芥川龍之介の著作「侏儒の言葉」の「偉大」で「民衆は人格や事業の偉大に籠絡されることを愛するものである。が、偉大に直面することは有史以来愛したことはない。」と書いています。巻頭に「侏儒の言葉は必しもわたしの思想を伝えるものではない。」と記しています。しかし、言葉や文にこだわったと思われる芥川龍之介が同じく「文章」で「文章の中にある言葉は辞書の中にある時よりも美しさを加へてゐなければならぬ。」「又」で「彼等は皆樗牛のやうに文は人なりと称してゐる。が、いづれも内心では人は文なりと思つてゐるらし

い。」を見ると私はつい「こだわり、「侏儒の言葉」に納得してしまいます。「侏儒」の解釈を考えてしまいます。

阪急電車や宝塚の創業者、小林一三氏は「必要な人になることが肝要で、どっちでもいいと云ふ人間になつては駄目」との言葉を残しています。小林氏によれば、社会では第一段階が「便利な人」第二段階が「必要な人」第三段階が「特色ある人」にステツプアップしていくと考え、まずは「必要な人」になることが重要と説いていたと聞き及んでいます。私も何でもできる人には「便利な人にならないように。」と話すことが多くありました。

卒業生の皆さんが周りから求められる人、必要な人として成長されることを願います。そして人となりの関係を大切にして、人から学べる人になつていただきたいと思います。

皆様の人生に幸多くあることをお祈り申し上げます。ご卒業おめでとうございます。

卒業生へのアドバイス



学長 佐藤 晋

この春ご卒業を迎えるみなさま、卒業おめでとうございます。今後は、就職・進学など新たな道に進むことになると思いますが、大きな期待とともに不安を抱えているのではないのでしょうか。実は環境が大きく変わるとき、新しいことに挑戦するときなどに、人が警戒心を抱き、心理的に不安が強まるのは人間の当然の反応であり、何が起るかわからない状況に慎重に対応するように備わった特性です。とはいえ、やはり上司や同僚との関係、お客様への対応などで、実際に多大な心理的ストレスを感じる若手社員は非常に多く、この就学から就労へのトランジションの過程で多くの若者が早期離職から引きこもりやメンタルヘル

スの問題を抱えるようになっていきます。そこで以下はいくつかアドバイスをしてみたいと思います。

まず、感情と行動は別もので、行動による「事実」の方が圧倒的に重要であるという点に留意してください。確かに上司に怒られたり、顧客とトラブルになったり、何か大きな失敗したりとなると、後悔の念や不安・怒りという感情が生じてきますが、これはどうしようもない自然の摂理によるものです。他方、本来はそうした感情とは切り離れた形で、合理的に考えて妥当な行動をとることが可能です。しかし、強い焦燥感や不安感に駆られて非合理的な行動をとってしまうこともよくあるのが人間です。本来、感情は主観的かつ一過性のもので、場合によっては仕事後に走って風呂に入って寝てしまえば、翌日には忘れてしまうことすらあります。その一方で、感情に左右された上での行動は「事実」として客観的に眼前に残ってしまいます。

逆に、問題が生じた時点で妥当な行動が取れていれば、その後の状況が好転していき、感情的にも救われていくことになります。要するに、難しいかもしれませんが、感情は起こるにまかせて放置しておき、その感情を引き起こしたおおもとの客観的事実に働きかけるということです。

ここまでのことが体感して理解できれば、次は自分が周囲から注意、忠告、批判されるような状況を作り出すことが重要になります。上司や同僚などからいちいち指摘されるのは不快かもしれませんが、しかし、目的は自分の行動を間違えないことなので、むしろ忠告が多い方が自らを省みて熟考する機会が増えることから望ましいのです。一方、感情の方は先ほど述べたように一過性のものなので、不愉快な感情にさらされるのが嫌で批判を遠ざけるといっては本末転倒です。このことは皆さんが出世していったって地位が高くなればなるほど重要になります。経営トップが周りを

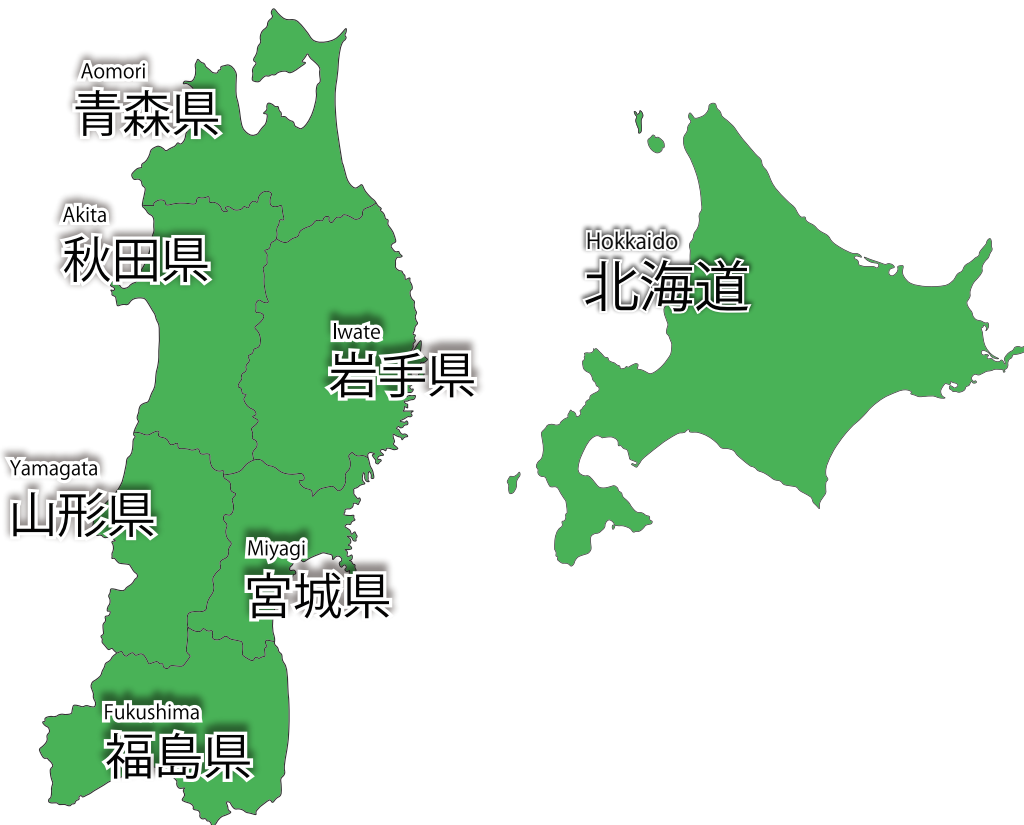
イエスマンで固め、批判を許さないような恐怖政治を敷いた結果、組織を破滅に追いやった法人は近年においてもよくみられます。また、自由民主主義国家で複数政党が選挙において競争しているのは、もし政権与党が誤った政策を行った時には政権交代させることによって正しい道を歩み直させるためです。議院内閣制の国ではたいがい与党が議会多数派で、野党が与党の政策を議会で批判してもそこで修正させるのは難しいにも関わらずこれが行われているのは、有権者に与野党どちらの主張が正しいかを判断させて、次の選挙で誤りのより少なそうな政権を選択させるためです。

以上のように感情より事実の重きを置き、周りからの忠告を喜んで受け入れること、要は目的と手段を混同しないように注意して、今後の道を歩んでください。

連載

松苓会支部長だより⑥

北海道・東北支部特集



※今回、都合により秋田県支部長の
原稿の記載はございません。

北海道支部

北海道観光案内函館・旭川編

支部長 佐賀敦司（49文）

この原稿の作成日、令和6

年12月22日、

道東と道央を

結ぶ道東自動

車道、阿寒釧

路IC⇄釧路西ICが開通

し、釧路市街地と札幌まで（約

300km、夏季所要時間約4

時間）がつながりました。

47都道府県中、最大の面積

を抱える松苓会北海道支部

は、旭川市を中核とする道

北、釧路市の道東、函館市の

道南の3分会を設置し、各都

市にて懇親会等を実施してお

ります。

令和6年、秋から冬にかけ

て道南・道北各分会懇親会へ

出席させていただきました。

函館市は高校3年まで暮ら

した故郷です。函館在住の先

輩諸氏との話題は、往時の名

飲食店の思い出でした。国鉄

青函局の職員で賑わっていた

駅前の蕎麦店「はし膳」、調

理火力が石炭だった中華の



「紅蘭」など、今では知って
る人も少なくなりました。

函館は、温泉の上に街があ
ります。湯ノ川温泉街が有名

ですが、ホテルの内風呂だけ

でなく、数軒残っている温泉

銭湯を探して入って下さい。

かなり、熱いです。湯ノ川の

他、お薦めの温泉は函館山の

麓、大型公衆浴場の谷地頭温

泉です。風呂上がりには、自販

機のジャージー牛乳、朝市の

イカ刺し定食を。

スタッフは地元のシニア

自覚なき訛りたのしい

ラッキープイエロ

12月、吹雪の道央道を札幌

から旭川（約140km）へ向

かいました。

旭川随一の繁華街は通称

「さんろく街」と呼ばれ、道

内で私が一番好きな飲食店街

です。「さんろく」の近く、

5・7には動物の名前が付い

た名店が2軒あります。旭川

名物・新子焼の居酒屋と、老

舗のラーメン店です。

熱燗の暖簾の外は

雪でした「猫」あとにして

「蜂」でラーメン

青森県支部

二松学舎と私

支部長 柴垣博孝（44文）

高三の夏、
本屋で何気なく
手にした本
がある。その

本には司馬遷の生き様が描かれていた。これが漢文を学ぶきっかけとなった。担任の先生に相談したところ、二松学舎専門学校卒業の神亮一先生を紹介された。このご縁で二松学舎に進むことになった。

入学式だったか、二松学舎を羊羹の虎屋に喩えて話されたのを聞いて、なかなか旨い喩えだと思った。自分は一本筋の通った国語・漢文の老舗に入ったのだと思った。

案に違わず、一流の先生方に恵まれた四年間であった。特に漢文関係で言えば、石川梅次郎先生、加藤常賢先生、宇野精一先生、小野沢精一先生、市川安司先生、赤塚忠先生、深津胤房先生、松井武男先生、新田大作先生、山口角鷹先生（以下略）等々、錚々

たる方々の講義を受けることができた。

どの授業も魅力的であった。異色だったのは山口角鷹先生の中洲詩文。読みに合わせて夢中で訓点を打っていたのが懐かしい。加藤常賢先生の文字学も興味深かった。今でも「亜」字を説明されたときのお姿が浮かんでくる。石川梅次郎先生の作詩文も小気味よい授業であった。お蔭で漢詩を作れるようになった。

暇があると、神田の古書店街（特に山本書店、海風書店、松雲堂書店）に行った。アルバイトのお金を貯めて『十三経注疏』や『説文解字』、『説文通訓定声』などを購入したが、あのときの嬉しさは今でも覚えている。

卒業後三十八年間、公立高校の教員をできたのも、また退職後大学で専任教員をできたのも原点は二松学舎にある。二松学舎で国漢を学んだことが私のキャリアの基になっている。二松学舎には感謝の言葉しかない。

有難う二松学舎。

岩手県支部

私が学生だった頃

支部長 宮本義孝（32文）

金町の駅近く
に「未完成」と
云う喫茶店
があった。リ

クエストすれば、レコードをかけてくれる。

学校に出ず、入り浸って、一杯のコーヒーでベートーヴェンの「運命」を何度もかけさせている男がいた。とうとう店主から、店への出入りを禁止されてしまった。

また中原中也の詩を幾つも覚えている男がいて、夜、皆が集まっている所にやって来て、それを朗読する。

時折、そこに自分の詩を混ぜ、「どうだ？」と聞く。

皆は中也の詩だと思っっているから、「いいですね」と言う。そうやって悦に入っている。時に、恋した男がいた。が、ラブレターが書けない。私が千八百円で請負った。

結果は、「今、私には好きな男性がおります」だった。

これは、ラブレター以前の問題だ。金は返さなかった。

中には、翻訳で生計をたてている男がいた。「良い翻訳は、日本語の本当を知らない駄目だ」と入学してきた。

また入学者の中には、戦後間もなく、どき回りをしていた素人歌舞伎の一人がいて、「もう一度、演劇を基礎から学び直したい」と言っていた。私らが二松学舎に入学した頃は、戦後の混乱が、まだ少し残っていた。

大学に入って、改めて勉強をやり直したい、そういう人たちもいたのだった。

昭和三五年、大学には百二五名の学生が入学した。その内、卒業したのは八九人。多くは、生活費に追われ、授業料にまで手が回らなかった。

しかし私にとっては、こういう人たちが、心の奥行きが深いようで、面白かった。

今は、そういう人たちのことを思い出し、懐かしんでいる。

宮城県支部

学問の素晴らしさに
目を開かされた時間

支部長 二上久芳（44文）



高校生の時、特に勉強が出来た訳でもなく、部活動に打ち込んだということもなく、何の取り柄もない私であつたが、二松学舎大学に入学して本当に良かったと心からそう思っているし、感謝の念しかない。それは各先生方の講義授業の素晴らしさであつた。中文に籍を置き学んだが、『中洲詩文抄』の山田角磨先生、厳格な訓読で中洲の思想と人間性を伝えてくれた。ゼミは赤塚忠先生のゼミに学んだが、テキストは『春秋左氏伝』であつた。割り当てられたところをやっていたが、諸橋の大漢和辞典を引いていたら先生に「中文を引いてくるバカがどこにいるか。」と一喝された。そこで目を開かされ、『辞海』や『中

華大辞典』などのあることを知った。宇野精一先生の『大学・中庸』の講義は、先生が「このところはウチのオヤジが」と言っていた。」と話され、

『経伝釈詩』の王引之が「家の大人言はくく」を彷彿とさせるものがあり、唯唯感心して拝聴していた。講義の圧巻はやはり当時学長であられた加藤常賢先生である。角川選書の『漢学の発掘』がテキストでそこに書かれている内容はもちろん、その周辺にまつわる様々なことを話され、やはり中国の学者を相手に第一線を走ってきた人は違うなど言う感を大いに抱かされたものであつた。そして先生が広島時代に被爆されたことや、男の子がいたが早くに亡くなったことなど、プライベートに及ぶ話も伺えたことは大変得がたいことであつた。

全く出来の悪い学生でどうしようもなかったが、今思うとこれ程いい時間を過ごせるとは思ってもみなかったのである。お陰で昭和51年3月、修得単位198を取得して、

卒業したのであつた。

山形県支部

「語文研」の再開を期して

支部長 今野紀生（55文）



高校時代に三国志演義がきっかけで漢文の世界に興味を持ち、恩師である斎藤裕先生（38文）の紹介もあり二松学舎大学に入学しました。当初は中国語など全く関心がなかったのですが、部活紹介のレクで流暢な中国語で紹介された永井鉄郎先輩（53文）に驚きと尊敬の念を抱いたことで中国語文研究会の門を叩いたのでした。

上級生が下級生を指導する体制やレベルによる班分けなど非常に合理的にシステム化されていました。当時は教養課程が柏校舎でしたので指導に來られる先輩方は大変なご苦労であつたと思います。

特に厳しかったのは発音指導です。中国語は発音ができれば半ばよしとも言われます

が、習得できてない発音のカードを持たされ、ある時は先輩のアパートを訪ねて指導を受けて食事までごちそうになることもありました。春と夏には合宿もあり、のんびりしすぎて課題が終わらず、上京する新幹線の中で辞書を引きながら帰るという、決して優秀な部員ではありませんでしたが、本当に充実した四年間でした。酒田市役所に採用になり、中国との友好都市交流や最近では酒田港に來航する外国クルーズ船の台湾やシンガポールの乗船客に案内の手伝いなどしています。発音だけは標準的です。ねと言われます。これも顧問の野村邦近先生や諸先輩方のご指導のおかげと心から感謝しております。

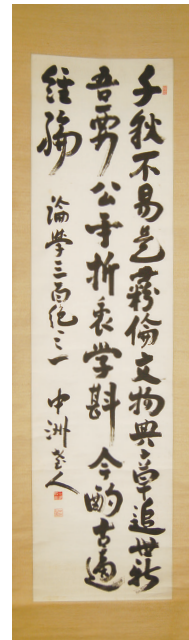
その語文研が、令和六年三月に最後の部員が卒業したことでついに閉部となっていました。誠に残念でなりません。隣の大国である中国との関係は今後も重要であり、人材の育成は必要不可欠であると考えます。語文研の再開を期待しております。

連載

吾輩、推し言葉

吾は要す公平折衷の学

⑤



今の長所を取り上げて国家を治める大本に適合させるのだ。

(訳 石川忠久)

今回の「推し言葉」の肝は

「公平折衷の学」

である。つまり「中庸の徳」である。

中庸とは、『四書』の一つ『中庸』に

由来し、極端に偏

中庸とは過不足のない中正なる徳をいう。穩健中正で、不変な道徳のことである。

この書幅は三島中洲の人となりそのものである。師の学徳(中庸の徳)がしのばれる。「論学三百絶の一」とあるので、学問を論じた詩の代表作であり、明治17年夏、二松學舎創立7年目の作である。

千秋易らざるは是れ彝倫／文物典章は世を追うて新たり／吾は要す公平折衷の学／今を斟み古を酌んで經綸に適せん

《通釈》 永遠に変化しないものは、人の守るべき道であり、文物や規則は世の中とともに新しくなる。私は公平で調和のとれた学説を求めたい。古

らず、道理になつた適切な判断を下すことを意味。朱子学では中庸を理になつた行動の実践と解釈し、徳の根本として重視した。誠の哲学を説き、「天人合一」の思想(天の意志と、人間の政治や修養の一致を求めようとする思想)を述べた。「誠は天の道なり。之を誠にするは人の道なり」は有名である。

◎三島中洲の「中庸」の実践

幕末の動乱期、三島中洲は尊王攘夷派・佐幕派・開国派の対立が激しい中、極端な思想に偏らず、儒学者として冷静に時勢を見極めた。幕臣として徳川幕府に仕えながらも、天皇を尊重する立場を持ち続け、維新後も新政府に協

力してきた。明治5年新政府の命により司法省に出仕し、明治10年大審院判事等を退職後、漢学塾二松學舎を開いて教育者として活躍した。

学問的には三変したと『中洲講話』で自ら語っている。

初めは佐藤一斎の門下である山田方谷より「朱子学」を徹底して学んだ。次に伊勢に出てからの5年間は斎藤拙堂のもとで、古学(孔子や孟子の原典に立ち返って研究する)を基に、和・漢・洋の「折衷学」を学ぶ。そして、30歳以後は備中松山藩に仕え、再び方谷の下で実務の指導を受け藩政に尽力した。正に「陽明学」の実践を積んだのである。

文久元年、松山藩で中洲が命を受け手掛けた学制改革の眼目は、漢学と西洋の學術を兼修させることであつた。當時の多くの漢学者と異なり、実学としての「洋学」の必要性を認識していたからに他ならない。この頃から既に〈折衷〉は「朱子学」、「陽明学」、「古学」、「洋学」の調和であつたことがわかる。

中国明代の王陽明は朱子学を学び28歳で科挙に合格。官界に入ったが、武人としても各地の反乱を鎮圧した。『山中の賊を破るは安く、心中の賊(私欲)を破るは難し』は、門人に与えた言葉であると同時に、王陽明自身への戒めの言葉でもあろう。

朱子学が客観的な社会規範を重んじたのに対して、陽明学は良知を発揮することを重んじた。徳川幕藩体制は朱子学を学問の柱とした。明治の天皇制中央集権国家は和・漢・洋の折衷を目指した。陽明学(『千万人と雖も吾往かん』の大勇を生むが、時として危険思想を生む可能性を持つ。三島中洲は知行合一の陽明学者といわれるが、その学徳は中庸そのものであつた。

明治近代国家は「折衷学」の大儒、三島中洲を必要とした。明治29年より東宮(大正天皇)侍講となる前から明治の精神的な支えとなっていたのである。

家永 修(44文・院修11文)

卒業生だより

卒業生同期会に参加して

加藤武俊 (49文)



令和6年11月9日、九段1号館13階ラウンジにて昭和56年3月卒業生の同期会が開催されました。そこは都心を一望できる大パノラマ。目を見張りました。

宮城県の旧友を誘い参加しました。彼とはそれぞれの結婚式以来の再会でした。私は公立高校の書道教諭として三重に帰省、仕事と家庭と毎日いっぱい日々の生活を送っていました。定年退職して、現在は近隣の高校と岐阜の正眼短期大学で非常勤講師を続けております。旧友と会って二松学舎が私の人生の礎をつくってくれたことを改めて痛感しました。学舎での仲間との出会いはまさに「朋有り遠方より来る、亦樂しからずや」でした。諸先生方の御恩もはかりしません。特に石川梅次郎先生にはゼミと藝

術書道研究会顧問として、寺山旦中先生には書道を通して生涯の師として大変お世話になりました。お二方とも既にお亡くなりになられました。が、漢学・書道だけではない多くのものを学びました。「君子は本を務む」で生き方の指針を示されました。よき師、よき友に恵まれた大学生活だったとつくづく思います。

今回の出席者の皆さんがそれぞれの環境の中で、紆余曲折ありながらも活き活きと生活されていることを聞きし、何とすてきな仲間であるかと深く思い帰路につきました。

人中の茯苓として

佐野礼子 (61文)



早いもので二松学舎大学を卒業して30年あまり。この度は学生時代の旧友の導きで、近況報告の機会をいただくこととなりました。

文学部国文学科の青山ゼミで近世文学を学ぶなかで、江戸時代の文化や人々の生活に

「いま」を書く

中嶋彩子 (77文)



私は近代詩文書作家として、毎日書道展、日書展、日本書展などを舞台に、作品を制作しています。詩文書を作品にする中で、「いま」の言葉を「いま」の書家が書くということについて考えます。二松学舎在学中は中古文学を専攻して、平安期のかな文字を学び・研究していました。かな文字は、当時の人の「いま」の言葉であり、当時の人の「いま」の書表現であったと思うと、その美的センスのすばらしさに憧れを感じます。歴史上に残っている古典はその時代その時代の詩文書です。

昨年、令和6年11月、アートサロン毎日にて『短歌と書』と題した展覧会に書家として参加させていただきました。現代短歌グループ歌林の会の先生方から短歌をご提供いただき、私の所属する日本書道美術院の書家が書作品

ついでに知見をより深めたいと考えるようになった私は、本学を卒業すると同時に國學院大學文学部史学科へ学士入学し、改めて近世考古学を専攻しました。卒業後は都内の自治体で埋蔵文化財の発掘調査に従事し、この15年ほどは自治体時代の同僚やOBの方々と共に立ち上げたNPO法人で、主に東京23区内で行われる近世遺跡の発掘調査および報告書作成に調査担当者として携わるほか、同業他社での指導や後進の育成なども行っています。近世考古学には文書や文字資料の解説が付きものなのですが、二松で身に付けた得難い知識は常に私の支えとなっています。

一昨年は恩師・青山忠一先生の訃報に接し、また実父と10年ほど介護が必要だった夫を相次いで亡くした胸が痛む年でもありました。ですが、人生は続く。人中の茯苓として世に少しでも資することができるよう、社会人として家庭人として、悔いのない人生を歩み続けて行く所存です。

教壇を去られる先生

心の庭

副学長 福島一浩



「人間の心は庭のようなものです。知的に耕される

こともあれば、野放しにされることもありすが、そこからは、どちらの場合にも必ず何かが生えてきます。」英国の思想家ジェームズ・アレンの言葉です。書を生きる私にとって心の庭を掘り起こし、そこから不純な誤った思いを一掃し正しい学びを植え育み続けるならば美しい書の花が生い茂ることとなります。書における諸相は自分の「心」の投影。古典、書史、書論と謙虚に向き合い制作することに力を注ぎ心を集中、書の海を航海するために先達のすぐれた学書方法を知り正しい方向へのコンパスとしてきました。

未来を見失わないために

「新しい計画の成就是ただ不屈不撓の一心にあり。さらばひたむきにただ想え、気高く、

強く、一筋に」中村天風の言葉。「寒椿力を入れて赤を咲く」赤を咲いてみせるという強い意志。正岡子規の句です。

書に限らず様々なジャンルの先達の言葉に寄り添いながら進めてきた人生。これからも人生そのものが習い事と思いつながる次のステージへ。京都・智積院にて向き合った国宝障壁画、長谷川等伯の楓図と久蔵（息子）の桜図。画面一杯、己の生命力を傾け描いた姿からの衝動がジャンルを超えて次の作品を生んでゆく。当時の人々にとっては現在であり、時空を超え常に現在形でよみがえる古典、未来を見失わないために深く学ぶのです。

スケール大きく

平安の「かな美」の代表「寸松庵色紙」をはじめとした古筆は小さい文字でありながらスケールが大きい。感情の機微が筆を通し紙面に脈々と記されてゆくのですが、スケールの大きさは失われません。日々の生活で出合っしてほしいですね。スケールの大きい愚考と。

卒業生の出版図書

大地武雄名誉教授(院博10文)

『陶淵明新研究―自己をみつめる―』

明德出版社

4,950円

(税込)



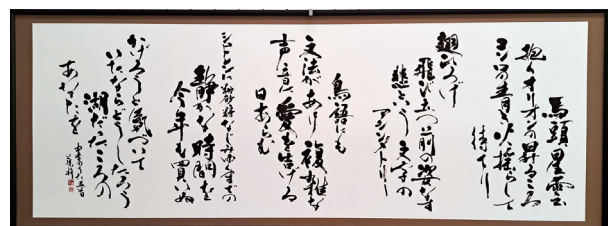
2024年3月24日刊

従来の伝統的文献研究の陶淵明研究を踏まえて、これ迄殆ど手付かずの陶淵明の内面、内奥の研究、その表現方法について研究してきた。その結果、陶淵明の一見矛盾したような言動をありのままに、矛盾を矛盾のままにとらえたところに偽らざる陶淵明の真実をとらえることができたのである。それはわが身を鏡に写すが如き手法での自己の客観化、自画化、分身化である。陶淵明の人物・作品の本質を究明した論考の他、陶淵明の詩に強く心引かれた、文豪・夏目漱石の漢詩文を採り上げ、その特質や彼の人生観を探究した注目の諸篇等、計26篇の論文を収録。

(著者の「はじめに」から)

にするという企画でした。通常、作品制作をする際は、著作権に触れないように作者没後70年以上の歌や俳句、詩文を題材にしたり、自作の文章を書くことが多い中、今回の企画では、現代歌人の先生方の短歌を書いた上に、実際に歌人の先生に作品を見ていただき、感想をいただいたり、お話しさせていただく機会もあり、大変貴重な経験をさせていただきました。

詩文書の持つ言葉の力、伝えたい言葉、そのイメージ、雰囲気などをどこまで表現できるか葛藤しながらの作品制作ですが、少しでも表現の幅が広がるよう、今後とも勉強し、精進して参りたいと思います。



次号から
スタート

全国自慢地図

福岡・熊本

予告編・特別寄稿

推薦のごとは

福岡県支部長

正生英彦（48文）

ご存知のように今福岡、九州は台湾のTSMCの熊本進出で注目されています。

そこで福岡支部の活動の一端として、台湾の銀行の東京支店長として、実際には日本代表として活躍されています高森幸太郎さん（48文）に彼の二松学舎、中国、台湾での経験も紹介しつつ、台湾と九州について一筆書いて頂きました。

この投稿が同窓会活動の一助となればと思っております。

九州に変革をもたらす
最先端半導体産業

高森幸太郎（48文）

1980（昭和55）年3月卒業（第48期）の高森幸太郎です。学科は中国文学ですが、在学中は中国語の習得に力を入れました。「息子が東

京に行ってアカになったと白い目で見られるので、帰郷しても中国語を勉強していることは絶対に他人に言わないでくれ」と親から言われている北陸地方出身の同級生がいたくらい、まだ中国に対して負のイメージが強い時代でした。私の故郷の熊本県荒尾市ではそこまで極端ではありませんでしたが、中国語を勉強するなんてちょっと変わった子だと親族から言われていました。

1972年9月に日中の国交が回復し、交渉にてこずった平和友好条約がようやく締結されたのが1978年8月12日です。当時台湾に短期語学留学していた私は、中華民国政府と民衆があの日とても冷静に対応していたことが印象的でした。そのころから日本企業の中国ビジネス、学生の中国語学習ブームが起きているのですが、ブームに乗って大学で中国語を専攻した学生が卒業するのは1983年以降だったため、1980年にはまだあまり競争相手がいない状況下で中国ビジネス要員として商社に入社し、一年目から中国貿易にたずさわることでできました。日本から中国へ14インチ白黒ブラウン管テレビやラジカセを輸出していた時代です。宝山製鉄所を作るといので、中国の技術者たちを北九州の八幡製鉄所に案内し、一カ月一緒に過ごしたこともありました。

商社勤務の後、ノンバンク

や香港系企業での勤務を経て、2015年から台湾の銀行の東京支店に勤務しています。2015年時点で台湾系銀行の東京支店は5行、当行が6行目として2016年開業、2017年に2行開業し、現在8行となっています。新たに2行が日本国政府に支店免許を申請中で、近々10行になる予定です。さらに2行が進出を検討中です。面積が九州とほぼ同じ、人口がわずかに2300万人の台湾から何故これほど多くの銀行が日本支店を開設するのか、その主な理由は、台湾企業・個人による対日投資の増加です（日本における台湾系銀行の顧客は基本的にすべて台湾企業または台湾人です）。

台湾の企業・個人は2010年代半ばまでは中国・香港事業がたいへん成功し、富を香港にプールしていましたが、昨今の中国・香港情勢により、事業を縮小または撤退せざるを得なくなり、資金を台湾本国、シンガポール、日本などの金融商品や不動産に分散させています。特に日本の不動産は、価格が大幅に上昇したと問題視されていますが、東南アジア主要都市に比べればまだかなり安く、彼らの投資意欲はしばらく萎えないでしょう。

また、ここ数年日本の大手企業が事業再編の一環として一部の事業を丸ごと売却するケースがあり、台湾企業が買い手として手を挙げるケースが多くあります。モノ作りは日本人、販売は台湾人というベストの組み合わせが実

現し、成功した例が多くあります。台湾人は日本企業の意思決定の遅さにはいつもいらだっていますが、モノづくりの力には一目置いていて、工場のベテラン社員が継続して勤務することを買収の条件にするほど製造現場を信頼しています。日本人は毎日1滴機械に油をさせと言われればその通り実行するが、台湾人は無精して一週間に一回7滴までとめてさす、この違いを台湾の製造現場は埋めることができないうのだと台湾人は言います。

最近の話題は何といってもTSMCの熊本進出です。当行は2024年福岡に営業拠点を開設し、台湾から熊本や福岡に進出してくる、TSMCと直接間接に取引がある企業と取引を始めました。台湾企業の九州進出は急激に増えており、彼らの意思決定と投資実行のスピードに、地域の行政や金融機関が振り回されている状況です。私たちが1970年代後半に中国語を勉強していた新竹は、台湾の

静かな普通の田舎町でしたが、今ではTSMCを中心とするサイエンスパークが世界的に有名な都市になりました。その後台湾各地で開発されたサイエンスパークはどれもTSMCが核になっていて、その土地は労働人口が増え、豊かになり、不動産価格が高くなっています。すなわち台湾人にとってTSMCの進出イコール都市の経済発展、不動産価格の上昇なのです。TSMCと取引がある企業なら当然、そうでなくても不動産賃貸業や飲食などのサービス業で熊本や福岡に進出すれば儲かるチャンス大いにありと考えて、これからこちらに進出してくる台湾企業、居住する台湾人が激増します。時々新聞等のメディアで



左は正生福岡県支部長
右が著者

これらの動向が報道されますので、是非とも皆さん注目してみてください。

募集!!

次号からスタート ——全国自慢地図——

68号から1年半の連載「松苓会支部長だより」に続く全国横断ページを企画中です。

テーマは「お国自慢」「我が支部には、風光明媚な所があります」「このような人物の出身地です」といった地域の誇りから、「私はこのようなことを研究しています」とか「このようなことをしました」など、個人的な出来事まで、各々の地域に根ざしたニュースをお寄せください。写真や地図、イラストなど添えてくださると有り難いです。

各支部長・会員の皆さま、
ご紹介お願いいたします。
(松苓会報編集部)

文学部中国文学科 名称変更に関する お知らせ

文学部中国文学科の名称が次の通り変更になります。

1. 中国文学科 ←
2. 国際日本・中国学科
変更の時期
2025年4月1日
3. その他

この変更は、2025年度に在籍する同学科の在学生についても適用となります。

なお、学科名は変更されますが、本学科の目的や養成する人材像、教育課程、教員組織、取得資格、3つのポリシー（アドミッシヨンポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）並びに授与する学位である学士（文学）に変更はありません。

「中国文学科の名称変更」に関して、詳しくは大学のホームページにてご確認ください。

おかえりなさい!! ホームカミングデー開催

2024年11月4日(月・祝日)、午前10時から午後3時まで、ホームカミングデーを開催しました。会場を九段2号館2階のラーニング・コモンズから、九段1号館11階会議室に移して行い、約120名の来場がありました。

ホームカミングデーは、大学と松苓会とが協力して、大学に卒業生をお迎えするイベントです。会場の入り口付近に立つウェルカムボードには「二松学舎大学へおかえりなさい」と記されています。会場では、大学の職員と松苓会スタッフが迎えをします。

今回は、「漢字一文字」の書き入れ、「卒業アルバム」の閲覧、「ねこ松」のボード前でチェキによる記念撮影、「ねこ松」のぬり絵コーナーをセットしました。「漢字一文字」では、多くの方がじっくり考えてハート型の付箋に書いていました。卒業アルバムのコーナーでは学生時代を

静かに懐かしまれています。「ねこ松」のぬり絵コーナーでは、子供より大人が一生懸命に塗っている光景が微笑ましく映りました。

帰りの際には、松苓会オリジナルの「グッズ」と「クリアファイル」をプレゼントしました。

平野松苓会長は、「来場された卒業生の憩いの場として、ゆっくり過ごししてほしい」と願っています。次年度のホームカミングデーにぜひ足をお運びください。



チェキによる記念撮影

同期会通信

第93期卒業生

同期会説明会を開催

12月21日(土) 13時より、九段1号館807教室において4年生のゼミナール担当の先生方をお願いし、各ゼミナールより集まった代表の学生対象に説明会が開催されました。

中原常任幹事の司会進行により、平野会長の挨拶があり、小西常任幹事からの同期会組織について、星野組織部会長の位置付けについての説明がありました。質疑応答の後、役員選出となり、代表幹事に中里真輝人氏、副代表幹事に藤井譲氏の立候補がありました。後日、幹事に上野彩音氏、千葉倫代氏、原田珠希氏から申し出があり、第93期卒業生同期会の役員が決まりました。

2月5日(水) 13時より第1回第93期卒業生同期会役員会が開催され、平野会長と星野副会長が同席して、今後の進行等について話し合われました。

第49期卒業生

同期会開催

11月9日(土) 13時より、二松学舎大学九段1号館13階ラウンジにおいて、第49期卒業生同期会を開催しました。第49期の入学は、1977年の本学百周年の年でした。卒業して四十有余年の月日が経った初の同期会でした。参加した64名のうち、ほとんどが卒業後初めて構内に入ったとのことでした。

松苓会の平野光治会長に臨席いただき、小町邦明氏から、柏キャンパス開設、収容定員増、学部学科増設、九段の地に1号館から5号館建設等卒業後の本学の目覚ましい発展について説明があり、参加者から感嘆の声が上がりました。続いて白井雅彦氏による乾杯があり、少し歓談後、土田浩二氏と佐賀敦司氏によるお楽しみ抽選会、自己紹介へと進み、打ち解けた面々は、昔話に花を咲かせていました。最後に校歌を斉唱し、名残りを惜しみながら、お開きとなりました。

学生会員だより

創縁祭2024を開催して

学園祭執行委員会委員長
文学部3年 竹石翔馬

11月3日（日・祝）、4日（月・祝日）に「創縁祭2024」を開催いたしました。今年度も、全面対面で開催することができ、学園祭実



創縁祭受付（九段1号館正面）

行委員会役員一同嬉しく思っております。また、今年はコロナ禍明けで最も多い参加団体数であったため、規模が大きな創縁祭となりました。多くの来場者の方々に喜んでいただくと共に、創縁祭を無事に行うことができ嬉しく思っております。

「創縁祭2024」では、各団体や各ゼミナールの発表を来場者の皆様に直接見ていただいたり、模擬店を楽しんだり、いただいたりすることができました。また、今年の創縁祭では有志での参加もあり、規模を昨年度よりも大きくすることができました。参加団体の皆様からは、「日頃の活動を多くの方々にしてもらえて嬉しかった」「仲間と共に日頃の活動を発表できてよかった」「青春の一時を過ごせた気がする」等、創縁祭を対面開催で行えたことや、

多くの来場者にお越しいただき喜んでもらえたこと、模擬店を開催でき、笑顔になったこと等、様々な喜びの声をいただきました。来場者の皆様からは、「二松学舎らしい発表を今年も見ることができて良かった」「模擬店が出版されており美味しいものを食べ笑顔になれた」「学生と触れ合い二松学舎大学の良い部分を知ることができた」「若者の元気なパワーを分けてもらった」等の、心温まる言葉もいただきました。このようなお言葉をいただき、学園祭実行委員会役員一同、大変嬉しく思っております。参加してくださった各団体・各ゼミナール・有



エントランスの模擬店

志の皆様や、お越しいただいた来場者の方々、創縁祭開催に力添えをしてくださった皆様方に深く感謝申し上げます。

昨年度に引き続き、今年度の創縁祭をどのように開催するのかを学園祭実行委員会役

員一同で何度も会議を重ね、大学側の各機関とも話し合っ
て検討してきました。新しい
役員と一緒に試行錯誤して、
創縁祭を迎え、無事に終える
ことができたことを責任者と
して大変嬉しく思っております。

私事ではありますが、今年
度も委員長を務めさせていた
だくことができ、委員長とし
て二年目の創縁祭でした。昨
年度の反省点や決められた条
件の中で、パズルのピースを
当てはめるように組み立てて
行く運営に時に苦しみ、時に
悩みました。しかし、信頼で
きる後輩や同期・お力添えく
ださる皆様のおかげで、創縁
祭を無事に終えることができ
ました。こんなダメダメな僕
のことをここまで支えてくだ
さった、皆様方には感謝の気
持ちしかありません。創縁祭
を無事に開催するためには僕
に力を貸してくれた人が一人
でも欠けたら達成できなかった
ものだと思います。

二年間、学生会執行委員会
の会長並びに、学園祭実行委



員会の委員長を務めさせて
いただけたこととても嬉しく思
っております。「人という生
き物は誰かのために力を発揮
し、その思いを受け取った者
が次の世代に引き継いでい
く。受け継がれる限り、その
思いは続いていく。信頼する
ことが大切である。」そんな
ことをこの立場に長くいて感
じました。皆様方、本当にお
世話になりました。今後も続
いていく学生会執行委員会・
学園祭実行委員会のこと何卒
よろしくお願いいたします。

軽音楽部

文学部3年 加藤伊織
こんにちは。二松学舎大学
軽音楽部です！ 軽音楽部で
は、通年バンドという形で1
年間同じメンバーでバンドを
組み活動しています。

学内ライブやライブハウス
での定期演奏会を通して一緒
に成長していけることが軽音
楽部の特徴です。初心者、経



験者問わず楽しく活動してい
ますので、ぜひ私たちのライ
ブに遊びに来てください！



創縁祭での熱気に満ちたライブ

「人材バンク」登録募集

あなたの力で、会員や大学を応援してください。

会員（含む学生）の求める機会に、会員の皆さまの知恵や技能を提供していただきたく、松苓会では平成2年度に「人材バンク」の事業を立ち上げました。
現在、登録されている方々は下表のとおりです。登録をお願いします。

- 内 容 講義・講話・講演・指導などの講師
ボランティアを基本とし、必要経費は主催者と相談により決定
- 登録方法 松苓会事務局にメールで「人材バンク要項」を請求してください。
「人材バンク要項」と「人材バンク登録票」をお送りします。
「人材バンク登録票」に必要事項を記入後、メールに添付して松苓会事務局までお送りください。

登録申請・問合せ先 松苓会事務局 〒102-8336 東京都千代田区三番町 6-16
TEL 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914
E-mail : shourei@nishogakusha-u.ac.jp

☆登録者に講演等依頼を希望される場合は、松苓会事務局までご連絡ください。

人材バンク登録者

(2025年1月1日現在)

氏 名	卒業期 学部	内 容
高橋 三男	34 文	名僧了翁禅師について 民俗紀行家の菅江真澄について
松尾 廣文	48 文	道德教育、学校経営、SDG s教育、教師育成
花岡 邦郎	49 文	教員志望学生対象に授業、校務、部活動の実態について
小金澤 豊	50 文・院博 39 文	論語、漢詩、漢字の各講座 興味を抱かせる指導法
宮島 裕介	73 政	ドローンに関する説明及び実演 趣味からインフラ点検まで網羅

寄付者芳名

2024年2月1日から
2025年1月末日までにご
寄付をいただいた方のご芳名
(敬称略)を掲載します。
たくさんの方のご協力に心
より感謝し、厚くお礼申し上
げます。
(一口千円)

50口	早坂 静子	41文	鷹架由加利	57文
39・9口	大分県支部から		早野 眞石	59文
(甲斐支部長)			萩崎 久雄	71政
30口	櫻井 哲夫	41文	細野(鈴木)夏末	75文
20口	(10口×3回)		中野 彰子	79政
			院18政修	
5口	深澤 賢治	37文	荒瀬 裕一	
	平野 光治	40文	久保田尉世	35文
	佐賀 敦司	49文	黒瀬孝志郎	38文
10口	飛田多恵子	33文	小林 政明	39文
	川久保 廣衛		城所 庸子	
	35文・院博4文		43文・院修10文	
	能村 玲子		松永 正之	43文
	37文・院修4文		本間実千代	44文
	豊田美知子	38文	平山 要子	48文
	金井 康		柴田 浩二	52文
	41文・院博10文		中崎 吾朗	52文
	佐藤 修	41文	畑 映子	53文
	小林 勉	41文	市木 努	57文
	飯田えり子	43文	小井土(大城)	
	宮下 宗樹	43文	美菜子	62文
	柴田 善達	48文	高山 和也	72文
	長島 優香	54文	高橋 正人	79文
	荻部 俊一	57文	4口	
			田丸 勉	39文

寄付者芳名

2024年2月1日から
2025年1月末日までにご
寄付をいただいた方のご芳名
(敬称略)を掲載します。
たくさんの方のご協力に心
より感謝し、厚くお礼申し上
げます。
(二口千円)

寄付金のお願い

松苓会では、会の発展のために会
員の皆様に寄付金をお願いをしてい
ます。松苓会の事業推進と財源確保
のために、一口千円で寄付金を募っ
ています。ご協力をよろしくお願い
いたします。

3	平岡才二郎	26文	山田敦	48文・院博17文	矢澤喜成	50文・院修17文	沢隆彦	51文・院修20文	蛭海悠司	51文	山根雅彦	51文	岩原伸	52文	栗原明美	53文	關谷庸子	56文	落合真紀子	57文	上野有美子	61文	高橋美羽子	62文	渡辺大雄	65文・院博42文	齊藤美奈子	69文	石塚知恵子	70文・院修38文	小熊正人	72文	日野皓正	74文	中本雄希	79文	趙希	79文	鷹野昌也	80文	行木詞子	80文	佐藤真一	84文	高橋真美	84文	富田陽一郎	院修44文
2	吉野恵津子	37文	吉岡富子	38文	五十嵐京子	38文	高山照瀬	44文	中村良子	44文	中安文恵	46文	杉江訓子	47文	小原伊知郎	56文	上田道子	68文・院博35文	大貫祥子	76文	佐藤元希	79文	近藤桂	87文	館野仁	72文	篠原貴	69文	上田道子	67文	吉田安成	63文	田口博信	63文	川俣茂	57文	江村春彦	54文	荒井俊郎	42文	清水登	41文	山田重則	41文	平岡才二郎	26文		

祝 祝

附属高等学校ダンス部 決勝大会で優勝 附属高等学校野球部 秋季都大会で優勝

春の選抜甲子園出場決定

2025年1月18日(土)、第9回高校生ダンスバトル選手権決勝大会がクラブタツチ(於川崎市川崎区)で開催され、附属高等学校ダンス部 Butterly effect が、3人チームで競う「3ON3」で優勝し、頂点に立ちました。おめでとうございます。

2024年11月7日(木)、附属高等学校野球部は、秋季東京都野球大会にて優勝し、2025年1月24日(金)に第97回選抜高等学校野球大会の東京・関東枠から代表の1校として選ばれました。2年ぶりの出場です。通算8回目となりました。応援しましょう。

2月28日(金)に、附属高等学校の校長室にて、平野光治松苓会長より鶴飼敦之校長先生へダンス部の優勝のお祝い金と野球部の甲子園出場の支援金が贈呈されました。

事務局だより

2024年度常任幹事会
(第4回) 11月16日(土)
主な議題

1 部会より

報告事項

- ① ホームカミングデーについて
- ② 第92期同期会役員会について
- ③ 支部総会報告
- ④ 第26回二松学舎大学教育研究大会について
- ⑤ 叙勲祝いについて

報告事項

- ① 部会より
- ② 幹事(支部長・同期会会長)宛て文書送付について

常任幹事新年会開催

1月25日(土) 16時、九段一号館地下食堂にて常任幹事による新年会を開催しました。三役は常任幹事と意見交換し、今後の松苓会の運営について貴重な意見を伺うことができ、有意義な会となりました。

2001(平成13)年度以前の卒業生の方へ
—終身会員手続きのお願い—

松苓会の運営資金は、ほとんどが終身会員の会費で賄われています。終身会費1万円を納入していただくと終身会員となります。会報を毎号お送りし、ホームカミングデーの案内もお送りします。終身会員の手続きをお取りください。

訃報

田村紀之 客員教授

元国際政治経済学部長
令和6年10月2日逝去
享年82

松尾勝郎 元講師

近世文学ゼミナール担当
令和6年12月4日逝去
享年93

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

表紙

大学秋の一大行事「創縁祭」2日目に開かれたホームカミングデー。スクールカラーの緑をはじめ色とりどりの風船で装飾された教室は、往時の学生生活に想いを馳せる二松OBOGで終日、賑わった。

編集後記

今年も桜の季節がやってきます。第93期の皆さん、ご卒業おめでとうございます。4月からの新生活、ご活躍をお祈りします。そして、ようこそ松苓会へ。新しい仲間が増え喜びいっぱいです。連載「支部長だより」は今号で全国を回り終えました。ご寄稿下さった皆さまに感謝申し上げます。

本報と松苓会HPは二松同窓生交流の場です。会員皆さまに活用いただくとともに皆さまの顔・声をひとつでも多く掲載させていただきたく、ご意見ご感想、情報等お待ちしております。

二松學舎大学(松苓会)
ホームページ
松苓会 E-mail

www.nishogakusha-u.ac.jp
shourei@nishogakusha-u.ac.jp

二松學舎
松苓会報
No.73

創刊 昭和62年12月1日
発行 令和7年3月10日
編集 二松學舎松苓会
住所 〒102-8336
東京都千代田区三番町6-16
電話 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914
振替口座 00180-5-160343 (郵便局払込取扱票)
印刷 (株)サンセイ

